2026 年　4 月 22 日

【ニュルブルクリンク 24 時間 Qualifiers Race1】
【ニュルブルクリンク耐久シリーズ 第 4 戦 ／ ニュルブルクリンク(ドイツ)】
24 時間レースを控えての Qualifiers、Race1 はアクシデント発生により中止に

前週のニュルブルクリンク耐久シリーズ(NLS)第 3 戦に続き、ドイツ・ニュルブルクリンクでは 5 月に本戦が行われる 24 時間レースの Qualifiers(予選レース)が開催された。このレースは 24 時間の前哨戦に位置づけられるとともに、全 10 戦で競われる NLS にも数えられることから、シリーズを戦ううえでも重要な週末となる。

レースは 4 月 18 日(土)と 19 日(日)にそれぞれ 4 時間の決勝が行われ、土曜日は Race1 を開催。NLS としては第 4 戦となり、公式予選は他のシリーズ戦と同様に 90 分間のセッションでベストラップを競い合う。決勝は予選結果に基づいたスターティンググリッドから 4 時間の戦いに挑むが、スタートが現地時間の 17 時 30 分と他大会よりも遅めに設定されている。

全 132 台がエントリーリストに名を連ね、そのうち最高峰の SP9 クラスは 37 台が出場。24 時間の戦いを前にしてフルコースを走る最後の機会であることから、レースとしての勝敗はもちろんだが、この週末は 24 時間に向けた準備をしっかり整えることも選手やチームにとっての大きなテーマとなる。

ヨコハマタイヤ勢は、SP9 クラスに 4 台が参戦。NLS 第 3 戦で総合優勝を飾った BMW M Motorsport (BMW M4 GT3 EVO)は、チャールズ・ワーツ選手／ウーゴ・デ・ワイルド選手のふたりがドライブ。第 3 戦をスキップした REALIZE KONDO RACING with Rinaldi(フェラーリ・296 GT3 EVO2)は、デビット・ペレル選手／デニス・マーシャル選手／ティエリー・フェレメレン選手という 3 人体制のドライバーラインアップ。そして HRT Ford Racing は 2 台のフォード・マスタング GT3 を擁し、65 号車がフランク・スティップラー選手／アルジュン・マイニ選手／ヒューベルト・ハウプト選手／デビッド・シューマッハ選手、67 号車がクリストファー・ミース選手／フレデリック・バービッシュ選手／ファビオ・シェーラー選手／コリン・カルサーニ選手という布陣で臨む。

また、第 2 戦のデビューで世界的な注目を集めた、BMW M3 Touring 24H が BMW M Motorsport から今回もヨコハマタイヤを装着して参戦、こちらはイェンス・クリングマン選手とニール・フェルハーヘン選手のコンビが優勝を目指す。

戦いの舞台はチャレンジングなことで知られるニュルブルクリンク、グランプリコースとノルドシュライフェ(北コース)をつないだアイフェルの杜を駆け抜けるものだ。ただ、他の NLS シリーズ戦とは異なり 24 時間で使われるレイアウトを採用するため、その全長は 25,378m と NLS よりも 1,020m 長くなっている。

土曜日のニュルブルクリンクは朝から晴れ間が顔を見せてコースはドライコンディション、公式予選開始を 30 分後に控えた午前 8 時の段階で気温は 10℃となっていた。オンタイムで予選が始まると SP9 勢は続々とコースイン、ヨコハマタイヤ勢ではフォードの 2 台を除いた各車が開始から 5 分を待たずしてマシンを進めて行った。

セッションは 90 分間、しかし 25km に及ぶロングコースゆえに時間の余裕は多くない。まして 132 台という参加台数は性能差も大きい様々な車両が走っているため、クリアラップをとることも難しい。そんな中、開始から 17 分で赤旗が提示された。路面に大きなウネリがあることでも知られるフックスレーレ区間で単独コースオフのアクシデント、これによって損傷を受けたガードレールの緊急修復が行われることになってしまったのだ。

予選は 9 時 40 分に再開、70 分のコースオープンとされた。仕切り直しとなるなかで各ドライバーが交代しながら走行、SP9 のヨコハマタイヤ勢ではマイニ選手がベストタイムをマークした HRT Ford Racing の 65 号車が最上位となった。SP-X では 81 号車の BMW M3 Touring 24Ｈが、同クラスのライバルを大きく引き離す速さでクラストップを獲得した。

いつもの NLS であれば予選終了から決勝スタートまでは 2 時間ほどという慌ただしさだが、この日の Race1 は決勝スタートまで 6 時間あまりのインターバルというスケジュール。16 時 40 分を過ぎてピット出口のシグナルにグリーンが灯り、各車はグリッドへと向かっていく。路面はドライコンディション、気温は 16℃ほどだがやや風が強いために寒さを感じるところで、コースサイドで見守るファンも厚着をしている人が多く見られる。

17 時 10 分にフォーメーションラップがスタート、まだ明るさは充分に残っているが上位陣の各車はヘッドライトを点灯してウィービングしながらストレートへ帰って来た。2 列縦隊が整い、グリーンシグナル点灯で 4 時間の決勝はスタート。37 台の SP9 車両群から 1 コーナーへ次々となだれ込んでいくか、大きな混乱は無く各車はノルドシュライフェへとマシンを進めて行った。

ヨコハマタイヤ勢で予選最上位だった 65 号車は、オープニングラップでポジションを 3 つあげて追走を続ける。77 号車も 2 つ、67 号車は 3 つポジションをアップして、同じく追撃をかけていく。

しかし、先頭が 4 周目に入った直後に、7 台が関係するクラッシュが発生して赤旗が提示された。レースは中断されて各チームはピットで成り行きを見守ったが、悲しい結末が伝えられてしまうことに。長くニュルブルクリンクに参戦を続けてきたベテランのジェントルマンドライバーが亡くなり、レースはそのまま終了となった。翌日の予選レース 2 は予定通り開催されるが、スタート前に参加者と観客の全員で黙禱がささげられると伝えられた。